

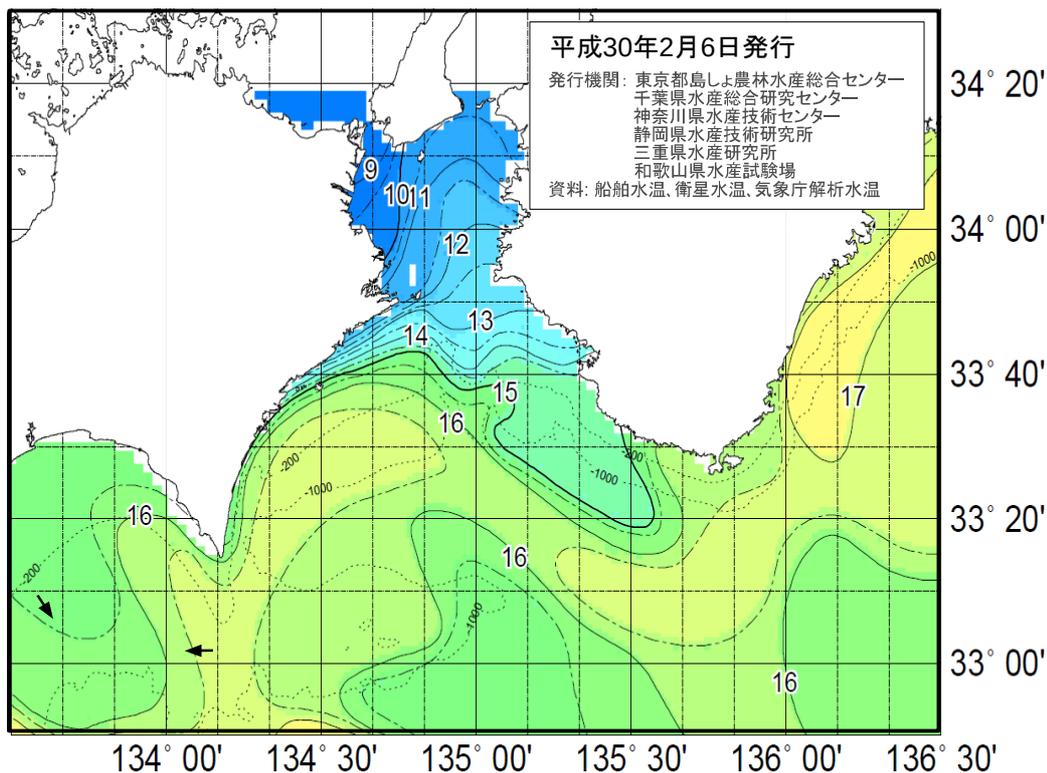
海況

1. 周辺海域の水温

黒潮は、室戸岬沖では引き続き「離岸」で推移した。潮岬沖では「著しく離岸」で推移した。室戸岬南東沖の黒潮から海部灘に向けて時計回りの暖水波及があり、押し上げられた水温フロント※が「海部沿岸にはりついている」。

徳島県沿岸の水温は、播磨灘で8℃台、紀伊水道で8℃～11℃台、海部沿岸で12℃～15℃台と低くなっている。黒潮の表面温度は19℃～20℃台となっている。

※水温フロント：水温が大きく異なる水塊同士の境界。海況図上では等温線が密になっているところ。



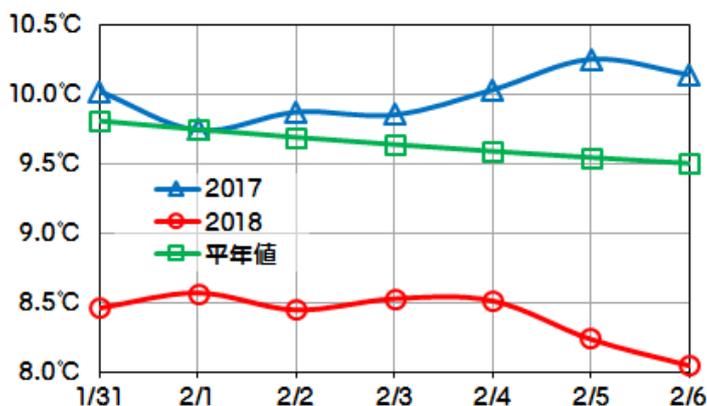
海況図は、平日夕方に水産研究課HPの「地先水温情報」のページに、前日分と当日分を掲載しています。

2. 地先水温(1月31日～2月6日)

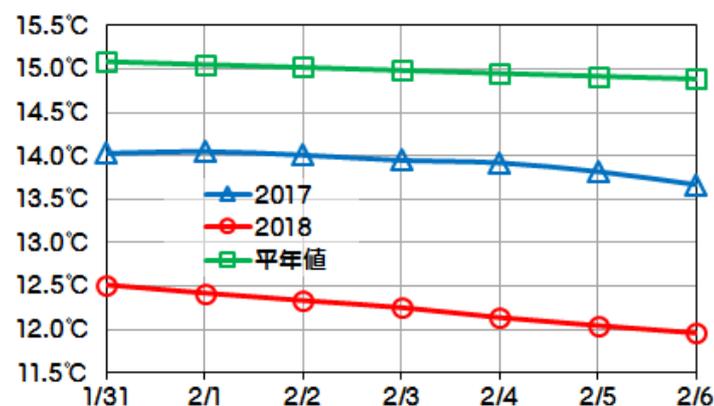
鳴門地区の地先水温は期間を通じて「やや低め」で、2月4日まで8.5℃でよぼ横ばいであったが、その後やや下がって6日には8.0℃となっている。

日和佐地区の地先水温は期間を通じて「かなり低め」で、12.5℃から12.0℃まで下がった。2月6日時点の平年値との差は2.9℃。

鳴門地区



日和佐地区



※水温の高低 平年並：平年値±0.5℃未満、やや高め/やや低め：平年値±0.5℃以上1.5℃未満
高め/低め：平年値±1.5℃以上2.5℃未満、かなり高め/かなり低め：±2.5℃以上

※平年値 鳴門地区：1981年～2015年の平滑平均値、日和佐地区：1982年～2015年の平滑平均値

3. 週間予報(2月7日～2月13日)

黒潮は、室戸岬沖では「離岸」、潮岬沖では「著しく離岸」～「離岸」で推移する見込み。

地先水温は、鳴門地区は「低め」の7℃台後半、日和佐地区は「かなり低め」の11℃台後半で推移する見込み。

漁況

2018年1月29日～2月4日（旧暦12月13日～12月19日）

1. 紀伊水道(標本漁協数:3)

標本漁協では、船びき網は、1月は例年休漁となっており、2月も4日時点では出漁していない。

延縄では、シマフグ、サワラ、ブリがそれぞれ0.3ト水揚げされた。ブリはめじろ級主体。

小型定置網ではキチヌ(きびれ)が大きく増えて2.8ト、マダイも大きく増えて1.2ト、マアジも増えて1.1ト水揚げされた。

底びき網では、コウイカが大きく増えて2.8ト、かます類も大きく増えて0.8ト、シリヤケイカが減って0.6ト水揚げされた。

2. 海部沿岸(標本漁協数:4)

釣りでは、タチウオが減って0.8ト水揚げされた。

建網では、カサゴが前週並みの0.2ト水揚げされた。

小型定置網では、マアジが大きく減って0.8ト、カタクチイワシが大きく増えて0.7ト水揚げされた。

大型定置網では、マアジが小小主体に前週並みの1.2ト、ブリがメジロ級主体に0.4ト水揚げされた。

漁獲量集計表(漁獲が0.2ト以上のものを抜粋)

海区	漁業種類	出漁隻数 (のべ)	魚種	漁獲量	(kg)	銘柄	前週比※
					1日1隻あたり 平均漁獲量		
紀伊水道	延縄	30	シマフグ	333	11		↗
		26	サワラ	332	13		↗↗
		6	ブリ	321	53	めじろ主体	↗
	小型定置網	24	キチヌ	2,792	116		↗↗
		22	マダイ	1,200	55		↗↗
		23	マアジ	1,056	46		↗
		9	ボラ	861	96	大主体	↗
		22	クロダイ	373	17		↗↗
		22	コウイカ	2,752	72	大主体	↗↗
	底びき網	19	かます類	810	43		↗↗
		24	シリヤケイカ	584	24		↘↘
29		モンゴウイカ	408	14		↗↗	
22		マルアジ	233	11		↗↗	
31		えそ類	231	7		↘	
海部沿岸		釣り	23	タチウオ	774	34	
	建網	19	カサゴ	240	13	中主体	→
	小型定置網	26	マアジ	786	30	小小主体	↘↘
		21	カタクチイワシ	664	32		↗↗
	大型定置網	7	マアジ	1,221	174	小小主体	→
			ブリ	362	52	めじろ主体	↗↗
			いわし類	233	33		↗↗

※ 前週比 200%以上:↗↗ 120-200%:↗ 80-120%:→ 50-80%:↘ 50%未満:↘↘